寺が並んでいて、ながめもよく、静かなようすがただよっています。

吉祥坊という古いお寺に、五十七歳の西郷四郎は、病気をなおそうと、移り住んでいました。

「ここに来て、もう二年が過ぎた。」

すばらしい瀬戸内海の風景、きれいな空気と、おだやかな気候にめぐまれて、早くよくなると思われた病気でしたが、なかなかよくなりませんでした。

最近の四郎は、自分でも、だんだん元気のなくなっていくのが、わかるようでした。大好きな弓をひくことも、しなくなりました。庭のすみには、大きな弓のまとが、四郎のうえたイチジクとサルスベリの木に、ささえられるようにして、ひっそりと立っています。

好きな散歩もできなくなりました。山の中腹を西の方に行くと、千光寺というお寺からながめる瀬戸内海の夕焼けは、故郷の津川の阿賀野川と常浪川の合